

私たちは非国民、売国奴を増やして、植民地人民との共同富争によって日本を包囲し、占領し、滅ぼしていくのだ。

さあ・東アジア反日武装戦線の仲間に残き・反日をめざし、
それぞれの反日闘争を創り出していこう!!

▼「反日亡國戰線・大森愛人」としてしたが、反日亡國連合戦線であり、それを中心とする一人である私、と云ふことです。

みんなが、せいの目を握りて歩いて、将衆、雲体館に形成されて、
二重の戦線、ユニバース。

く、反目へ向う側面をわざと切つて二人で二二五のたぐひと思つて二二五の

▼として反目にもいふゝある。

唯一の理想なきがなにか、或は、東洋はきなきことに出る、その理想は、
左、一〇〇度、横切つて、二〇〇度、なる、と、いふ。

多角的であるからいざ、革命が来たらだいたい。

—札幌拘留所、大森勝久さんの手紙から

（止間おぎの）
シンボのやり方と
四つの立場

▼ 従来のシンポジウムは、どうしても一部の人のだけかしゃべる。だれでも気軽に、思いつきの発言ができ、笑い声が出る。いというわけにはなかないかない。一般参加者にとって、シンポは聞くこと以上のものでない。そのやり方を、私たちはどうしてもとりたくない。

▼ なければ、この集会は、主催者名が示すように、

① 東アジア反日武装戦線へ以下東アと略すの仰いと主張を全的に肯定し、または若干の小異と批判にかゝらず支持し連合する立場。

② 東アの仰いあるいは主張に対して、若干の批判をもつが、それへの弾圧は、又自分の運動と仰いへとながる弾圧として受けとめ、彼らをサポートする立場。

③ 死刑制度廃止論者として、東アの死刑重刑攻撃に反対し、この集會に参加する立場。

④ 東アの仰い主張について、生活領域、あるいは市民・住民運動などの分野から、何とない関係、一体どんなことだったのか、という注目を、それぞれ個人の段階でもったり、もちはじめに人たちの立場。

つまり、きわめて大ざっぱなわけ方だがおよそ四つの立場のそれぞれ個人参加者が、東アジア反日武装戦線との関係で、全く対等で横にならぶという大連合の具体化である。

▼ そしてシンポジウムは、集會のいわば横中へ形式的な連合（ともいうべき、この①②③④を、へ質へへ実質的連合）に転化することで、運動としての集會のへ力にしようというものである。

云いかえると、従来の集會では、たゞ提起され、聞かされるものであった。基調報告と宣言の内容実を、参加者全員で創り出すものとして、シンポジウムが設定されるということなので

ある。

▼ ところで、先にあげた①②③④の分類は、便宜的概括的なもので、もちろんこれだけで、多様な参加者の意見と立場のすべてをカバーし、かつ代表する、なんてものではありえない。

だから一へふつうシンポジウムは、提起者への質疑応答という形ですゝめられるのが、従来のやり方だが、このシンポは①②③④提起者への質疑からはじまるのではなく、むしろその①②③④が例示的、ロールプレイ（役割演技）的に誘発する、それぞれのへ自分の立場の省察からの発言で進められることになる。

▼ つまり、四つの分類をとることにしたのは、以上のことを前提にして、シンポジウムへの均等な参画を全参加者に保証し、かつその発言を期待するからである。

換言すれば、四つの立場を提起した理由は、

① まず発言を①②③④の立場にかたよるのを防ぎ、③とくに④的立場の発言をうながす呼び水としての意味。

② 四つの面から、参加者の立場が照し出されることで、改めて「自分の立場と在り処」について考えるき、かけの提起。

③ 同時に、「他者の立場からの発言」の共存の許容と、「自分との相違」を明らかにすることでのへ自分の意見への意識化。

▼ 集會の成否の半ばは、このシンポ進行の実態にかゝっている。シンポへの全力的協力を

①の太陽から

ぼくは、『東アジア反日武装戦線』の一連の叩いと、彼らが叩いの中で煮つめてきた『反日思想』を支持します。しかし、反日思想、その実践としての反日斗争も、完結した体系ではなく、形成途上であり、それは今後の実践を通じて、豊富化されていくと思います。

それに、ぼく個人が彼らの真意を的確に伝えることは不可能なことですから、反日を支持し、叩いて行こうとする者の一人としての立場から述べてみたいと思います。

何年か前に、エルサルバドルでインシカ社の日本人重役がゲリラに誘拐されたことがありました。マラヤでも商組が攻撃されました。その他にも一般に知られていない反日の叩いはいっぱいあります。

何故、こんなにもオセ三世界の人々から日本へ人は憎まれるのでしょうか。

最近、教科書問題で『侵略』が『進出』に書き換えられて国際問題になっていますが、それが問題になったのは侵略が過去のことではなく、企業進出という風にいわれる日本の全世界に及ぶ経済侵略によって、日々抑圧・搾取され続けている被植民

人民の激しい反日感情の爆発だといえます。

こうしたオセ三世界の被植民地人民の犠牲の上に、「ゆたか」で「平和」な私達、日本人の生活が存在するのです。これは多少の差はあれ、資本家から労働者に至る全ての日本人に共有されています。

これが、日帝本国人の反革命性として、オセ三世界の被植民地人民にとって、日本人全てが敵であり、殺されてもしょうがない存在となっているのです。

彼らにとって、日本人との関係は、まさに「気分はもう戦争」なのです。

こうしたことを、日本人社会の日常に始めてつきつけ、向い返えしたのが「東アジア反日武装戦線」の戦いであつたと思います。

彼らは、帝国主義本国の抑圧民族としての自分自身を、祖国否定の反日斗争を叩くことによって、具体的、実践的に自己否定して行ったのです。

彼らが始めて名乗りをあげた、三菱重工爆破作戦で死傷者が出たことで、一般市民はもちろん、過激派といわれる新左翼までもが批判を集中しました。しかし、あの時、叩いたと小躍りして喜んだオセ三世界の被植民地人民が歴史にいたことは確かです。

この現実の差こそ、帝国主義本国人と被抑圧人民の位置の違いを示すものだと思います。このことは、別の意味で何故、爆

弾なのか、という問いかけにも応えることになると思います。

生活を破壊され、生命をもおびやかされようとしている被抑圧人民に合法的な抑圧の手段は残されていません。

武装斗争こそが唯一の斗争手段なのです。

これを受けて、帝國主義本國中枢こそを戦場に、と考え、同質的な抑圧で応えて行くことではないかと思ひます。

もし、今日アジア人民の名で決行声明が出されていたら、私達は、それにどう応えていくでしょう。今の生活水準を十分に落してもいいから侵略行爲をやめろ、と叫び、具体的に実践してでしょうか？

様々に変革がなければ、むづかしい革命理論が語られていきます。しかし、今持っているものを手放すことなしに、新しいものをつかみ取ることはできません。

帝國主義本國人である自分自身を、具体的実践において自己否定し、(反日斗争は武装斗争だけではなくあります。公然の大量的な反日斗争も当然あると思ひます。現実にもすぐれない古典的の革命論ではなく、具体的現実から出発することによって、最底辺の人民内外の被抑圧人民及び帝國主義本國の底辺労働者の力を、彼らの戦いに結合させていくことができるのではないのでしょうか？

抑圧民族としての日本人を拒否した彼らを救く権利は、日帝本國のどこにもありません。日帝こそが有罪なのです。

昨今の急激な右傾化、反動攻勢の中で、彼らへの死刑・重刑

攻撃を許すなら、大逆罪の復活、天皇制イデオロギーによる判決をテコに、反動化は一層、激しくなるでしょう。

今日の沈黙は、明日の雷につながるのです。



② のちのち

① 死刑・重刑攻撃粉碎

東アジア反日武装戦線の兵士達に対する、死刑・重刑攻撃は、体を張って日帝と闘わんとした者の抹殺であり、日帝支配の下に、あえぎ苦しむ闘わんとする者への抹殺であると思ひます。

又、荒井まり子さんに対する「無形的・精神的幫助行爲」としての死刑八名の攻撃は、このような集會をもつこと自体を主権力は「許せない」と何らかの弾圧を仕かけてくる存在であるんだという事を証明していると思ひます。

日本が、日本帝國主義として生き延びていく為には、闘う者は邪魔な存在なのです。だからこそ、今回の死刑・重刑攻撃は断固粉碎していかねばならないと思ひます。

② 日帝のアジア侵略に燃えていることは加担すること。

そもそも、死者の数だけでも五千万人といわれる虐殺行爲が過去のこととしてすまされることができるでしょうか？

日本は、中国の、そして朝鮮半島の地図を赤く塗りつぶし、土地を奪い、言葉を奪い、強制的に多くの人達を連行し、命を奪いました。そして、最近報道されたように、南東軍石井細菌部隊の抗日ゲリラ・捕虜への生体実験等は、日本の侵略の非道さを物語っています。しかも今なお、経済支配をおして、アジア・アフリカ・中近東・中南米のオ三世界諸国へのおくことのない侵略を続けているのが日本であり、その中に私達の生活もあるのです。そして、あの、「侵略」を「進出」と言いくるめる教科書問題を見て下さい。

金支河の「日本は、今、かつてより、より狡猾な形で我が民族を脅かしている」という告発に対して、私たちは、何と答えられるのでしょうか？

③「東アの申いの意義と限界性」

日本人としての自らの侵略性にオトシマエをつけんとした彼らの死斗、権力への具体的攻撃は、ある意味で偉大であり、学ばべきであり、継承すべきだと思います。

「教科書問題」を今日の契機としたアジア人民の反日斗争も究極的には日帝侵略実体の爆破へと向かうだろうし、その「侵略実体」のカナメとは、まさに、私達日本人自身であることを肝に命ずるべきだと思います。

そして、一刻も早く、私達は、アジア人民への血の強制をやめさせるべく、やめるべく、日帝内の侵略実体との闘いを強めねばならないのです。

そして、そうした闘いは様々なやり方があるわけですが、その核はまさに武装斗争だといわねばなりません。

その理由は、オ一に、そのことによつてしか、敵を武装解除できないこと。オ二に、そうした生死を分けた死斗によつて自己変革も勝ち取られていくということ。オ三に、人民の武器の必要性が、内外のより焦点化したところの現実から死活的に向われていること、の三点です。

まさに反日の諸君は、そうした闘いを先駆的に担ったのです。だから、以上のような意味では、爆弾斗争に対しても評価こそされ、異議をもつものではありません。

しかし、反日思想にある、「日本の上・中層のプロへ組織労働者」は、家も車も、他にもたくさん持ちあわせており、革命を必要とはしていない。なる決めつけは、真に、侵略とその結果としてもある国内へのしめつけ攻撃という点、又、差別分断支配のカラクリを明らかにし、日帝内人民の主體的、かつ連帯した総反乱を組織化していく、という展望に欠けていたといえます。

もう少し具体的に云います。

国鉄当局、国家権力、勤労の本部、この三者の首切り、弾圧組合除名、テロ、リンチを、ものともせず、成田へのジェット

燃料費車輸送阻止を闘う動労千葉の闘いがそうです。

農産破壊と、軍事の建設に加担してはならないと、彼らは数日のストをしただけで、右の様な弾圧にさらされたのです。これに對して「所せん組織労働、日ごろはジェット燃料を運んでしまつてゐるではないか」と、誰が批難できるでしょうか。

すなわち、今日、組織労働者、未組織労働者を問わず、敵の侵略と反動の攻撃が強まっております。首切り・合理化・分断支配が横行しています。そして、動労千葉のように、単に賃上げと合理化反対を闘うだけでなく、侵略実体＝軍事空港ナリタ粉碎を、ジェット燃料を運ぶためのハンドルならにきらないんだ、という自らの場所性において、闘いを追求している労働者努力も確実に存在しています。

集中的弾圧に見られたように、敵はこのような腹わたを食い荒らされるような斗いに恐怖しています。

日帝の実体である国家独占資本との対決は、被支配階級の労働者自身と被差別人民、農民、漁民、全人民の連帯した力で行なわなければ、オ三世界に對する支配構造も打ち破ることはできないし、階級的視座を持って初めて被植民地人民と手を結びあつていけるのだと思います。



③の立場から

私は、あらゆる死刑に反対するという立場から、東アジア反日武装戦線の第一審死刑判決に反対します。

私は、どんな場合でも、いかなる死刑にも反対です。けれども、場合によつて死刑も又やむを得ないのでは、と考へている方も、この中にはあるいは、いるのではないのでしょうか。というのは、この前、街頭アンケートをとつたら、ハゲが死刑に賛成という結果でした。それで、こんどは、新左翼、反戦、その他の活動をしている、死刑には反対や、という人たちに、では、どんな死刑にも、絶対反対か、と聞くと、答へが、時には、あいまいになるといふことにも出会いました。

く殺しは、どんなときも悪だと云われます。その悪を、国家が法の名において行つ「制度」を認めることはできません。

私たちは、死刑に反対だと思つていても、その「制度」を認めてゐる以上、自分もまた、この私もボタンを押している、ひとです。

死刑は、国家の殺ぐを「制度」としたものであるために、絶対反対であるという理由の外に、私は、次の五つをあけたいと思います。

第一は、死刑はこの上なく残酷で、屈辱的、非人道的な刑罰です。

第二は、死刑囚のほとんどは、社会の貧困層、弱者です。その社会的な虐囚を彼らにのみ負わせることはできません。

第三は、死刑は犯罪の抑止的効果を持たないことが、統計に出ています。

第四に、無実な人に課せられたとき、とりかえしがつきません。

第五として、死刑は執行関係者すべての人間性を、この上もなく腐敗させます。

そして、東アジア反日武装戦線に対する死刑重刑攻撃に対して、断乎反対します。が、それ同様に、又、その他の一般刑事囚の死刑にも絶対反対の立場です。

国家は、マスコミを通じて、東アジア反日武装戦線の彼らに、「爆弾魔」「無差別テロ」とかの大キャンペーンをはることで、よって、その行動や思想の意味を抹殺し、常に、悪い奴の死刑は当然だということを植えつけようとしています。これは、いわゆる刑事犯罪を犯した、刑事囚の死刑を当然とするもので、政治囚をも抹殺する権力の底意は意図です。その意味でも、どんな死刑にも反対する立場が、又、東アジア反日武装戦線の彼らを死刑から救う道に思います。

東アジア反日武装戦線は、日本人の過去、現在における侵略行為に対して、加害者としての自覚に立ち、その責任を身をも

つて果たすことにおいて、武装闘争に立ち上りました。

私は、東アジア反日武装戦線の彼らに、深い共感をいだいています。

しかし、又、死刑反対の立場から、爆弾を使うということ、意図したものではないにせよ、死傷者が出たという闘いのあり方について考えると、私は苦しくなります。

最後に、今度の死刑判決で、ポイントになったのは、企業爆破よりむしろ、天皇爆殺計画未遂だと思えます。現代にも大逆罪が復活し、歴然として生きている事実には、目をみはるわけにはいきません。戦争の最高責任であり、何百万人も殺した天皇が生きていて、戦争で何人も殺した人が、死刑制度存置の頂点に立っているのです。

みすみす国家権力に殺されていくしかない、東アジア反日武装戦線の彼らに、私は、死刑はやめて、と叫び、死刑廃止に向けて、自分にできること、死刑制度廃止関西連絡センターでの活動で、みんなと連帯したいと思えます。



4の立場からA

●「あんだ、ハラハラの準備会にきだしたのはなんで？」

▲「ハ呼びかけがね、野次馬でもなんでも、ともかく関心をよけるもの、みんなの大連合。ってあった、あれでどんなんやろって、いうまあ好奇心」

●「この東アジア反日……のこと、あんだのグループの中で、話することあるの？」

▲「そらあ、まあ、あの当時は、エライことをやったなあ、とこそ話したこともあったやろけど、住民運動の中では、ずう、と話題にする事を意識的に避けてた問題なんや。なんかおそろしい、いう感じもあるし、とことん話すと、こんでもないことが、とび出すような危険をはらんでいるんよ。住民運動では、地域で受け入れられるやり方をカ一にするから……」

●「それで……」

▲「私、この七月末に、良心的軍事費拒否の会」のセミナーで沖縄に行ってきたんやけど、その時、米軍の実弾射撃を阻止しようとして、刑事特例法で裁かれてる人の話をきいたの。」

それが新聞で報道されているのとエライちがう。これは一寸考えなおさんとアカン、マスコミの云うとおり思いこんど、た

ら、えらいまちがいすると痛感したわけ。

そこへこのハラハラ大集会の話。で、東アジア反日武装戦線についても、自分の目で確かめなあかん、と思ったの。新聞の評価ですませて、自分で何も考えてこなかったもんね。」

●「大連合というのが気に入った、と云ってたけど、どういうこと？」

▲「大阪に帰って、沖縄の仲いの事を話したんだわ。そしてら組合の決定に反して、違法行衆をするのは、運動にとってマインナスになるんとかうかなあ、って云う人があるんよ。それをきいてね、一つの立場に立つと、他のやり方を認めなくなる傾向があるんやなあ、と痛感したの。」

そんな点で、こんどの集りは新しい試みではないやろか。すぐ解決できない問題を、いっばいもってろいような立場のみんなが、本音をだし合っ、てぶつかれるだけでも、大したことやと思う」

●「ここにきて、支援連のピラをはじめてみて、ショックをうけたって、云ってたけど……」

▲「たとえば、三菱重工のことで、爆弾の威力や予告、効果の誤認から、死傷者をだした。とてもつらい気持ちでいる。心から自己批判してる、てかいてある。そんなことマスコミでは全然報道してへん。」

エッ!!という気持ちね。彼等は、はじめから死者がでても仕方がない、と思ってるや。たんと違つか。革命には、少々の犠牲

者が出るのはやむをえない。と思つてたのと違ふのか、というおどろきね。

でも、そのビラを前にしても、まだ、なんか、信じられん氣持やった。支援連が云つてただけで、彼らは、ほんまはそう思つてないのところが、と疑つてた。

●「こんどのメッセージでも、大導寺さん片岡さんがそのこと云つてるね」

▲「そやねん、ほら、卑士って醜態非情っていうイメージがあるやない。別世界の人間っていうかんじの、過激派の無差別テロ、凶悪無比、さう新聞にかいてある。」

それが私らと同じ血も流もある人間やという意見やね。さういう意見は、向う人を、自分の身近かにひきつけて、考えられるっていうことやと思うわ。その人の頭だけでなく、ハートが見えてきたというかんじやね。

こんどの集りにきはじめから、新しい意見は、かりやわい

④のちからB

（このころは、もう常識やけど、四五年前ー反原発の講座で、いまは、石油文明、なんや、という話を聞いて、びっくりしたことがあります。）

もう、常識ーというのは、たとえば関西電力の原発キャンペーンのパンプにも、同じ「ゆたか」で「便利」になくらしは、

石油のおかげです。この石油エネルギーのおかげで現代の私たちは、一人が奴れい七人を使うような生活をおく、ていのです。まさに、昔の王侯貴族のくらしといつてよいでしょう。ーと書いてある。

そこで、その石油がなくなるから、原発を建てなくちゃ、というわけやねんけど、反原発運動をやつてうちに、だんだんわかつてきたのはー

石油が、七人の奴れいの代りをしてるんや、というのはウソで、日本という王さんが、アジア、アフリカ、オセアニアを奴れいにするこゝとで、いまの私たちのくらしが成り立ってるんやなーというこゝとです。

私の子供のころは、バナナひとつにしても、夢にもみた高級なくだものやった。それが、いまじゃ、なんやバナナかというぐらい安物になって、なんぼでも買える。それは、日本の資本が土地を買い占め、フィリピンの人たちの畑を焼き払い、バナナ畑にかえて、奴れい労働を強制してるーというように、私たちの「ゆたか」で「便利」になくらしは、昔の王さんが「ゆたか」で「便利」になくらしを支えたやり口と、ち、とも変わらへん。

X X X

だから、反日武装戦線の人たちが云つてる、「反日」というのは、そのことを云つてるんやなアと、なんの抵抗もなくスツと入ってくる。

資本主義とか階級とか搾取なんてムズかしいことなしで、単

純明快に私にもよくわかる。

そしてなによりも「反目」ということで、はつきりするところは、自分がその中にはいっているということです。

「ゆたか」で「便利」な暮らしを求め、それを維持している自分自身をまず撃たなアカン

それはまた、反原発運動でいう「自分の生き方・くらし方をかえる」という問題と全く共通している問題です。

いま全く同じだといったけど、よく考えてみると、とても大きくちがっていることがあります。

それは、オーに、私らは、最近や。とそのことに気づきはじめているけど、彼らは、すでに十年前にそのことに気づいたということ。

オ二に、そのことを、何よりも、ぎりぎりの自分の問題にひきつけて真剣に考えてた、ということ。

オ三に、それを企業爆破という行状で、私たち市民にもつきつけたということです。

そこで、このことにご答えるかーが問題なんやけど、正直いうと、どうにも簡単に答えられないのです。

それこそ生き方・くらし方を一変せなアカンわけやけど、そんなわけにはどうしてもいかん。そういうところから、私は都市での反原発運動を性根をすえてやろう、ということになつてゐるやけど……

※ ※ ※

だから、とらわれている彼らに対して、支持するという立場しか、私にはありません。

それから、いままでの権力のやり口は、まず過激な方から弾圧していくわけやけど、これくらいなら安全や、という線はない。市民運動みたいのは許してやるというぐあいにはならん。許してもらうためには、権力といっしょになって、あいつは過激や、わしらとはちがう、あの過激派をやっつける、といわなければならぬ。

反目、武装戦線の人たちに死刑・重刑がかけられているということは、わたしにも同じように、権力にたてつく奴は「死刑」やというおどかしをかけられていることやと思います。

バクダン犯人や人殺しやいうことで、彼らを批難・分断することは、権力の目的やし、市民・住民運動全体の力を弱めることです。

自分自身の問題として、グツと考えなアカンことやと思つてます。



82.8.25

▼ どうか、まず全頁を通過して下さるようにと心からお願ひする。文章をつくられたら、それを浄書し、印刷したすべての者は、たいそのことのみを願つて、全力を尽した。おうけとり下さい。(実行委員)